

# 平成30年度 学校評価シート

学校名：串本古座高等学校串本校舎

学校長名：愛須 貴志 印

めざす学校像 育てたい生徒像	豊かな心と確かな学力を身につけ、個性の伸長をはかることで、地域や社会の形成者として貢献できる人間を育成する。
-------------------	--

本年度の重点目標  (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 基本的な生活習慣の確立と基礎学力の向上
	2 キャリア教育の充実
	3 自主活動の活性化
	4 地域の教育資源を活用した、特色ある教育活動の充実

中期的な目標	地域と共に歩む学校として、串本町・古座川町との連携を密にしながら、将来の地域を担うグローバル人材の育成に努めるとともに、地元7中学校からの生徒入学率アップ及び全国募集生徒の増加を図ることで、募集定員の確保をめざす。
--------	---

学校評価の結果と改善策の公表の方法	学校運営協議会や育友会総会等を通じて関係各位に結果を知らせるとともに、本校HPにおいても公表する。
-------------------	---

達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価				年度評価(3月22日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	学校全体として、生徒の様子は落ち着いており、身だしなみの乱れた生徒の数も例年に比べ少ない。しかし、一部継続的に指導を要する生徒もいるなかで、職員が共通認識をもって普段からの指導に当たる必要がある。規律を守り規則正しい生活習慣を身に付けることが、自己の将来にも繋がっていくのだということを意識付けることが課題である。	・身だしなみやマナー面で、学校において適切な言動がなされているか。 ・校則や社会規範を守ることがキャリア形成に繋がるのだという意識が高まっているか。	・学期始め～ヶ月の期間で集中的に全職員で校門指導を行い、生徒の登校の様子に注意を払う。 ・1学年4月に外部講師を招き、制服の正しい着用についての身だしなみセミナーを実施する。 ・毎昼の校門指導による無断外出防止指導 ・交通安全に係る講話とテストの実施 ・情報モラル、薬物乱用に係る講演会の実施 ・定期考査期間中の列車マナー指導及び ・毎月2回の交通指導	・頭髪・身だしなみ指導にかかる生徒数の減少及び規範意識の醸成、遅刻生徒の減少 ・制服の正しい着こなしを1年生から定着できるか ・無断外出生徒の減少 ・交通安全における理解の向上 ・情報モラル、薬物乱用における正しい理解の向上 ・乗車マナー等守られているか ・警察及び地域交通指導員との連携をはかれているか。	・身だしなみについては全体的に大きな乱れはなく良好であると思われる。一部の生徒で改善に時間を要する者がいたが、丁寧に指導に当たることができた。 ・規範意識を高めることがキャリア形成につながっていくという認識はまだまだ低い。	B
	1・2年のアドバンスクラスが30人を超え、学習への取組に前向きな生徒が増えており、授業全体も比較的落ち着いた雰囲気で行われている。一方で、生徒間の学力格差は依然として顕著であり、特別支援を要する生徒も存在する中で、いかに組織的できめ細かな学習指導を確立できるかが課題である。	・学力の二極分化に対応する組織的な取組ができていないか ・家庭での主体的に取り組む学習時間を確保するなどの具体的な方策が講じられているか ・基礎学力確立のための各教科の組織的取組がなされているか	・学習環境の整備(教室整理整頓・インターネット環境の充実・視聴覚教材の活用・デジタル教科書の使用) ・年間最低一回の研究授業実施による授業力の向上と生徒の言語活動を中心とした主体的な活動をさせるアクティブラーニングの取組 ・自己の考えを主張できるプレゼンテーション能力。コミュニケーション能力の向上をさせる ・チャイムと同時の始業 ・授業評価の分析とその結果を反映した授業の実施	・学習環境が十分に整備されているか ・年一回の研究授業を実施できたか ・研究授業に対するフィードバックが教科で確実に実施されているか ・生徒を主体的に動かせる組織的な取組が教科ごとに行われているか ・教員の授業開始時間に遅れはないか ・スタディサポートや授業評価を実施し、その結果に基づいた学習指導が授業に反映されているか	ICTを利用した言語活動の必要性や視聴覚教材の効果的な活用の重要性は認識しているものの、HR教室での整備が追いついていないため、各教科の実施度はまだまだ低い。自己を表現するプレゼンの機会を増やすことができたが、教員の授業改善意識の向上が課題。	C
2	大学等の進学についても一定の成果を挙げ、また年々就職希望者(公務員を含む)は増加している中で就職率も10年連続して100%を達成している。しかし、入学者の学力は年々低下しており、個々の進路実現に向けた取組意欲も低く、自主的・意図的な行動が少ない。	自ら課題を発見し必要な情報を収集し、その課題を解決するという経験を授業だけでなく、学校行事の中に取り入れ、主体的に自身の能力の伸長を図ることができたか。	・個々に応じた、納得のできる進路実現を目指す。 ・学校の中で『働く意義』や『生き方』について学ぶ機会を設定し、自身の将来設計を具体化させる。 ・担任視点だけの進路指導に陥らないように、生徒個々の進路希望を職員全体で共有し、実現のため学校全体でバックアップしていく。 ・社会体験やオープンキャンパス、大学等の出前授業への参加機会を潤沢にし、生徒自身が自分と向き合う機会を多く設定する。	・各種補習、外部セミナー、模擬試験等の実施状況 ・進路希望別学習を通じて、進路についての知識だけでなく、社会に出て活用できる技術・能力の習得 ・模試分析会議の開催や進路カルテを導入し、生徒個々の進路目標や意識を学校全体で把握できているか。 ・ハローワークや若者サポートステーション等と連携を密にし、在学中と卒業後の生徒の進路情報を共有し、在校生へフィードバックできているか。 ・それぞれの活動に振り返りの時間を設定し、個人の記録から自己の進路意識の醸成を相対的に評価	・総合的な学習の時間や学校行事進路学習を通じての取り組みを要所で実施することで、主体的に探究活動を行える生徒は増加している。しかし、クラスにより偏りがあり、特に就職を希望する生徒への低学年での学習指導や進路意識の醸成にまだまだ課題が見られる。 ・3年次の早期段階で進路決定者が増加する傾向にあり、内定後の指導に苦慮している。	B
3	昨年度のCGS部の創設により、生徒の主体的な取り組みや地域への働きかけやボランティア活動が積極的に行われるようになり、学校の特別活動は活性化しつつある。多くの生徒は行事や部活動など様々な場面において真面目に取り組むことができるが、生徒数が減少しつつある現状で更なる活性化が求められる。	・行事や部活動を通して自ら課題を発見しそれを解決するという経験によって、自主的に行動できる能力を養えるか。 ・個の活動から集団としての活動へと繋がる指導ができるか。 ・生徒会をはじめ、学校を盛り上げるための生徒の自主的な取り組みを促す指導ができるか。	・クラブ活動の更なる活性化に取組む。 ・体育祭・文化祭その他の学校行事において地域に向けて串本古座高校を発信する。 ・生徒会活動の活性化のため地域や他の学校との交流に取り組む。	・生徒のクラブ活動への加入100%をめざす。 ・各クラブ活動の成績向上、部員数の増加。 ・各行事において、地域住民の参加や町内関係機関からの働きかけを得ることができるか。 ・生徒会行事を積極的に行うことができたか。校外へのイベントに積極的に参加することができたか。	・各種行事において、生徒会が中心となり力を発揮してくれたおかげで、生徒全体が活気ある活動ができたか考える。 ・協調性を育むことができていた。 ・生徒会は積極的に活動できていた。	B
4	学校設定科目等で地域資源を生かした教育を推進しているが、防災教育などで地域との連携をさらに深めることで、学校教育の活性化を図りたい。また、学校の特色や教育活動等の情報を発信することで開かれた学校づくりに努め、入学志願者の増加につなげることが課題である。	・地域、家庭、関係機関等と連携した具体的な取組が行われているか。 ・学校の教育活動が適宜外部に広報されているか。 ・地域の人材を効果的に活用できているか。	・防災委員会を核とした、生徒の「自助、共助、公助」意識の向上を図る防災教育の実施。 ・地域協議会やくらしお保育サポーターと連携し、地域独自の教育活動誌を推進する。 ・「学校案内」や生徒の全国募集に係る案内チラシ等の広報資料の充実と、教育活動についての広報の実施。	・災害発生時に適切な判断や行動ができるよう、防災スクールや避難訓練をとおして意識の涵養が図れたか。 ・地域をまるごとキャンパスとして、教育活動が行えたか。 ・地域の人材を活用することで高校生が町づくりに参加し、地域貢献ができたか。 ・より充実したオープンスクールの実施や、ホームページの随時更新等を滞りなく推進できたか。	・防災に関する取り組みを毎学期実施。実際に地震が発生した際には、放課後でありながら生徒は自主的に避難する等、一定の成果が見られた。 ・オープンスクールの内容改善やホームページ・フェイスブック等での頻繁な情報発信により広報活動の充実を図った。	B

学校関係者評価	
平成31年 2月実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○アンケート結果	学校関係者に行ったアンケートで、昨年度総合評価はA回答が0、B回答が13であったが、今年度はそれぞれ5であった。特に、①本校の教育方針や教育指導目標の重点が分かりやすく示されていると思いませんか。②本校は保護者や地域の方々との情報交換や意見を取り入れ活かす機会を設けていると思いませんか。③本校では、生徒の状況に応じ、充実した授業が行われていると思いませんか。④本校では、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるため適切な指導が行われていると思いませんかのA回答が、それぞれ増加した。同時にとった生徒の評価アンケートも、「本校での学校生活は充実していますか」のA回答が44.4%から51.8%に増加している。 自由記述欄には、「大切なのは「生徒(生徒候補)の本音」。ここをまず理解し、その上で何が必要かを考えたマーケティング戦略が大切かと思います。」「学校を取り巻く環境が大変厳しい中、様々な取り組みに挑戦し続けていることに敬意を表したいと思います。」「中学生、保護者から見て何とかして行きたい学校のメリットを示すべき。例えば、何か資格を得られるなど専門的な教科やクラブがあるとよいと思う。」という記述があった。
○学校運営協議会での意見	・第1回運営協議会 「中学校ともさらに連携して生徒にアピールするのがよい。」「地元の人が学校のことを知らないのが問題。」「イメージの問題」「他校に負けるので、進学を前面に打ち出さない方がいいのではないかな。地元に住住してくれる人が増えるには、高校としてどうすべきか。地元で根ざす生活ができる生徒を育てることを目指す方がよい。」「進学にもっと力を入れるべき。」 ・第2回運営協議会 「特色ある科目の中で一般の社会人の受講も考えてみてはどうか。」「地域の高校としての役割を議論してどんな高校をめざすべきか話し合わなければならない」という意見が出て、各委員の意見交換を行った。 ・第3回運営協議会 「串本古座高校の高校生はいろいろな取り組みの中で、非常に楽しそうにしていると思う。」「そういう高校生の様子をもっとPRしてほしい。」